

英語・句レベルの曖昧性について

— 英語曖昧表現の諸相Ⅱ —

中野 清治

(平成4年9月24日受理)

要 旨

英語の曖昧表現は言語事実について興味深い側面を明らかにしてくれるが、従来の文法書は曖昧性についてはほんの申し訳程度にしか触れていない。前稿（「高岡短期大学紀要第3号」）では Lexical Ambiguity について概観してみたが、本稿では Structural Ambiguity を句レベルにおいて検討してみたい。

言葉の曖昧性は、語そのものが多義であることに起因するものと、語が結合することによって構造が多様に働くために多義が生じるものがある。後者のばあい、句のレベルで生じる曖昧性と文のレベルで現れる曖昧性とに区分できるが、本稿では句レベル、とくに名詞句、動詞句、形容詞句、〈～ing 句〉がどのように曖昧性を生じるのかを観察する。小論の目的は上記の句形式の意味論的曖昧性の実態ないしは姿を明らかにすることであって、曖昧性を惹き起こす理由をさぐったり、曖昧さを解消する手順を検討するといったような、思弁的な文法理論や規則を組み立てることではない。

キーワード

曖昧(性)、多義(性)、名詞句、動詞句、形容詞句、〈～ing 句〉、意味、構造

1 はじめに

ある言語の語彙が豊富であるか否かにかかわらずなく、また話し言葉であれ書き言葉であれ、いかなる言語にも同一の語・句・文が二つ以上の異なった意味にとれる場合のあることは想像に難くない。こうした現象を一般に曖昧 (Ambiguity) と呼んでいるが、本稿では英語で「曖昧表現」がどのような形をとって現れるかを観察してみたい。

日本語で「曖昧」というとき、Ambiguity の語源的意味である「両義」または「多義」の意味でよりも、むしろ「漠然とした」(vague) の意味で用いることが多い。この点に

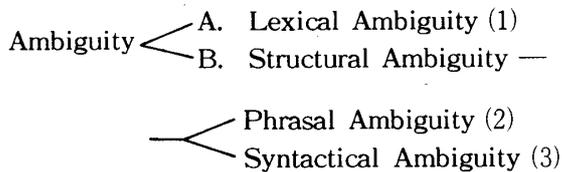
関し「研究社新英語学辞典」(s.v. Ambiguity) に次のような説明がある。

『文が二通り以上に解釈できる場合、不明確性 (vagueness) によるものと曖昧性によるものとは区別しなければならないが、両者の区別が直観的にはっきりしない場合も少なくない。従って、文法規則を構成する側からすれば「二通り以上に解釈されうる任意の文についてそれが本当に曖昧な文であるかそれとも単に不明確な文にすぎないか」を判定する客観的テストが存在していれば都合が良いわけである。この種のテストとして統語論上、意味論上あるいは語用論上のさまざまなテストが提案されてきたがいずれも決定的なもの

ではない。』

本稿はそのような判定のための客観的テストを提供することが目的ではなく、前述したように曖昧表現の諸相を概観して見ることである。くりかえすことになるが、本稿で曖昧(性)もしくは Ambiguity という語が使われているばあい、それは「多義(性)」(Plurisignation, 石橋: 68) という意味で用いていることをお断りしておきたい。

Ambiguity は、以下のように、通例 A、B のようなタイプに分類されるが、筆者は B をさらに二分して三つの型に分類してみた。



本稿はこのうち(2)の分野を扱っている。

2 Noun Phrase

2.1 Adj. + NP

(1) A deaf - and - dumb teacher.

- (a) 聾啞学校の教師。
- (b) 聾啞の教師。

(2) An old bookseller.

- (a) 古本屋。
- (b) 老人の本屋。

(b) のような解釈をした場合、形容詞はふつうの使い方であるが、(a) のような解釈をした場合、形容詞の中に概念の省略があったり、主要語 (headword) の一部だけを修飾する [(a) の old は次に来る名詞の前半 (book -) だけを修飾している] といった特殊な使い方をする。後者のような用い方をされた形容詞を Jespersen は Compositional adjunct (MEG II 12. 4) と呼んでいる。次は動作主名詞が二様に解される例である。

(3) A good teacher / a beautiful dancer.

- (a) One who teaches well / one who dances beautifully. [派生名詞的性格]

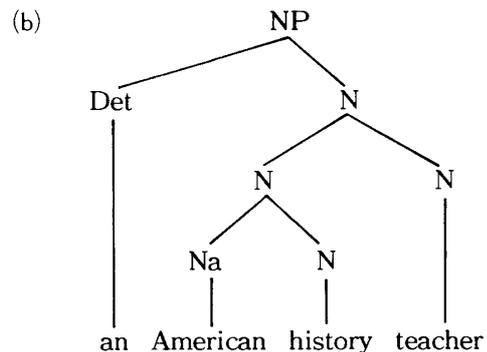
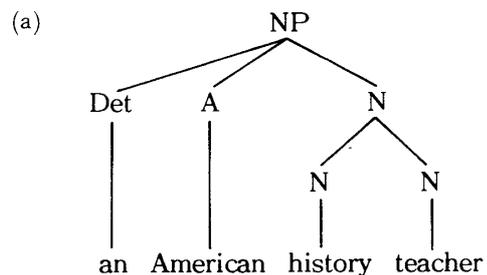
(b) A teacher who is good / a dancer who is beautiful. [実体名詞的性格]

2.2 Adj. + NP + NP

(4) An American history teacher.

- (a) アメリカ人の歴史教師。[Det A N]
- (b) アメリカ史の教師。[Det N]

(b) の American は 'of America' を形容詞化した Nominal adjective である。(a) の American のように述語的用法に由来する Adj. ではない (中島, 下: 106)。



2.3 NP + NP

(5) A glass case / a toy car.

- (a) ガラスでできた箱 / おもちゃの自動車。
- (b) ガラスを入れるケース / おもちゃを運ぶ自動車。

[N → N₁ N₂] の構造であるが、(a) は N₁, N₂ の二つの名詞が同じ対象を指しており、N₁ は N₂ の材料を表している (e.g. an iron stove / a wool sweater)。 (b) では二つの名詞が別の対象を指しているが、両者のあいだには関係がある。Complex noun group の各要素間の関係は多岐にわたり、大変こみ入った意味論的關係が働いている。

e.g. [[[airport [[long term] [car park]]]]
[courtesy vehicle]] [pickup point]] (sic)
(Hirst : 144)

2.4 NP's NP

- (6) My father's picture.
- (a) 父の所有する絵。[所有属格 : the picture belonging to my father]
- (b) 父が描いた絵。[主語属格 : the picture of my father's own painting]
- (c) 父を描いた絵。[目的語属格 : the picture of my father]
- (7) What do you think of Tom's book ?
- (a) …… the book that Tom owns ?
- (b) …… the book that Tom wrote ?
- (c) …… the book that Tom edited ?
- (d) …… the book that Tom is to review ?
etc., etc.

(7)のような例は *ambiguous* とは言わず、Tom と book との関係が無指定 (*unspecified*) で漠然 (*vague*) としているだけである。

- (8) The committee's appointment was a surprise.
- (a) 委員会が任命 [指名] したことは驚きだった。
[the committee appoint (someone)]
の名詞化。
- (b) その委員が任命されたことは驚きだった。
[(someone) appoint the committee]
の名詞化。

派生名詞 (*appointment*) の前につく属格がそれぞれ目的語属格・主語属格として機能しているので、二様の解釈ができるのである。

2.5 Adj.+NP's NP

- (9) That beautiful lady's hat / an old man's coat.
- (a) あの美しい婦人帽 / 昔の (古びた) 男性用上着。
- (b) あの美しい婦人の帽子 / 老人の上着。

(10) She told me about the new doctor's degree.

- (a) 新しい博士号について (= about the new doctorate)。[the new [doctor's degree] と分析し stress は doctor にある]
- (b) 新しい博士の学位について (= about the degree of the new doctor)。
[[the new doctor's] degree と分析し stress は degree にある]

(11) The stout mayor's wife stayed home.

- (a) The stout wife of the mayor stayed home. (市長の太った夫人)
- (b) The wife of the stout mayor stayed home. (強壮な市長の夫人)

2.6 NP of NP

(12) The criticism of the chairman was not sharp enough.

- (a) The criticism about the chairman was not sharp enough. (司会者に対する批判は～) [of the chairman は目的語属格]
- (b) The chairman's criticism of the issue was not sharp enough. (司会者がした批判は～) [of the chairman は主語属格]

(13) They watched the shooting of the hunters.

- (a) They watched [the hunters shoot △].
(猟師が撃つのを～)
- (b) They watched [△ shoot the hunters].
(猟師が撃たれるのを～)

派生名詞や動作名詞が後に <of-属格> を従えるとき、上記のような二通りの解釈が可能になる。表層構造が同じでも、(13 a, b) で示したように二つの異なった深層構造を持つと考えられるからである。Jespersen (MEG V, 7. 6,) は 'the teacher in charge of the class' に類似した例をあげているが、これは「クラス担任教師」「クラスから世話を受けている教師」の両義を持ち、全く反対の意味を表すが、上に述べた二種類の <of-

属格>によるものである。

名詞は根底の構造において時制を持っているので、厳密に言えば曖昧であるような表現がある。次の例がそのことを示している。

(14) That beautiful girl was in the same class with me.

(a) That girl, who was [t₁] beautiful, was [t₁] in the same class with me.

(But she is old now).

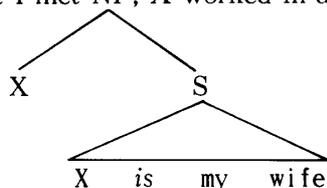
(b) That girl, who is [t₀] beautiful, was [t₁] in the same class with me.

(But I never expected her to become such a beauty.)

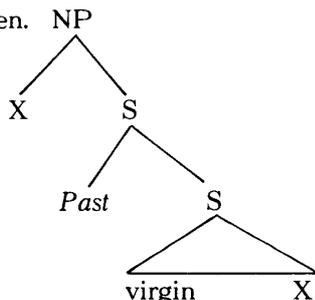
'Beautiful girl' は 'girl [who {is or was} beautiful]' から(1) Relative Clause Reduction (関係詞節縮約変形) を経て 'girl beautiful' となり、さらに(2) Modifier Shift (修飾語転移変形) を受けて、'beautiful girl' となったものであり、(1)の段階で時制が明示されなくなったので、上記のような二つの解釈が可能になるわけである。名詞が根底の構造において時制を持っていることは、下記の例によって知ることができる(村木・斎藤: 278)。

(15) Before I met my wife, she worked in a library.

Before I met NP, X worked in a library.



(16) The virgin is now a mother of three children.



3 Verb + Particle

名詞と同じくほとんどの動詞は多義である。そのような動詞と不変化詞が共起するといわゆる 'Phrasal Verbs' を形成し、意味がさらに拡大・膨張していく。因みに、'take up' を OED で調べると(a)~(w)まで24の意味に分類されており、その中のいくつかにはさらに下位分類してあるものがある。こうして同じ VP が多義を生じることになるが、VP の持つ多くの意味を分類する作業は辞書の扱う仕事であり、それは句の構造に基づいた多義性を扱っている本節の主旨とは異なるものである。

Marquez & Bowen (115) は VP の曖昧性を論ずるにあたって、次の(17)(18)の例にみられるように [V + PP] [V + Prt] [V + Adv] の3種類に分類しているが、(18 a)の解釈は Idiom としての読みであり、(a)(b)ともに、in は Particle と解してよいように思われる。以下では、前置詞としての働きが明確な場合を除き、不変化詞はすべて Particle [Prt] として扱うが、(25)のように問題が残らないわけではない。

(17) He looked over the car.

(a) He was standing on one side of the car (which partially blocked his view) and looked at someone on the opposite side. [VP + PP]

(b) He inspected the car because he was considering buying it. [V + Prt]

(18) They tossed in the towel.

(a) They decided to give up any hope of winning the football match. [V + Prt]

(b) They added the towel to the laundry. [V + Adv]

(19) A : It says that thousands of germs can live on the point of a needle.

B : What a strange diet !

A : (a) 何千という細菌が針の先で生きることができるそうだ。

[V + PP]

- (b) 何千という細菌が針の先を食べて生きることができるそうだ。

[V + Prt + NP]

B: 変な食餌!

Aはもちろん(a)の意味で用いたのだが、Bが故意に曲解して笑いを誘おうとしたジョークである。

(20) A good pharmacist dispenses with accuracy.

- (a) すぐれた薬剤師は正確に調剤する。

[V + PP]

(The way a good pharmacist dispenses is with accuracy.)

- (b) すぐれた薬剤師が省く手数は正確さである。[V + Prt + NP]

(What a good pharmacist dispenses with is accuracy.) (Hirst: 137)

(21) I asked him to stop by next week.

- (a) 彼に来週までには(活動を)止めるように頼んだ。[V + PP]

- (b) 彼に来週私の家に立ち寄るように頼んだ。[V + Prt]

(22) The drunken visitor rolled up the carpet.

- (a) 酔客はカーペットの上をころげ回った。

[V + PP]

- (b) 酔客はカーペットを巻き上げた。

[V + Prt + NP]

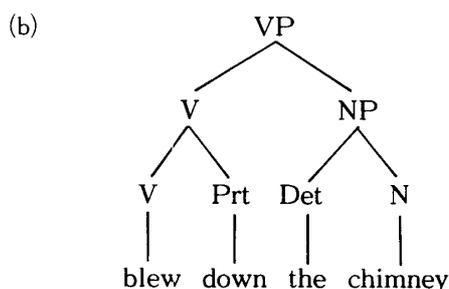
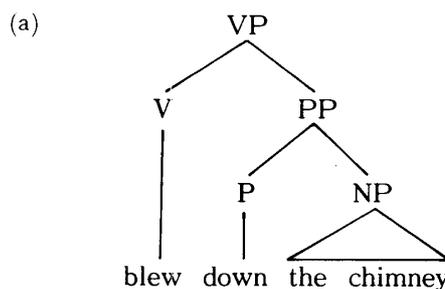
(23) The wind blew down the chimney.

- (a) 風は煙突を吹き下りた。[V + PP]

- (b) 風は煙突を吹き倒した。

[V + Prt + NP]

(23 a)はblewに強勢があり、'blew violently down the chimney'のように副詞が割って入ることが可能であるのに対し、(23 b)はdownに強勢があり、'blew the chimney down / blew it down'というふうに語順を変えることが可能である。この原則は(22)など、同類の構文すべてに当てはまることである。下の樹形図は中島(上、130)から借用した。



(24) They sent the requisition over a week ago.

- (a) 彼らは請求書を1週間以上も前に送付した。[over = Prep.]

(It was over a week ago that they sent the requisition.)

- (b) 彼らは請求書を1週間前に送り届けた。[over = Particle]

(They sent over the requisition a week ago.)

(25) I could never wear that old dress out.

- (a) 私にはあの古い服を来て外に出ることはできない。[out = Adv.]

- (b) 私にはあの古い服を着つぶすことはできない。[out = Particle]

4 Be + Adj. + to ~

(26) It is easy to drive.

- (a) One can easily drive it.

[It = e.g. the car]

- (b) To drive (Driving) is easy.

[It = to drive]

(27) The chicken is ready to eat.

- (a) 鶏は今にも餌を食べそうだ。

(The chicken is ready to eat some food.)

- (b) とり肉は食べられるばかりになっている。

(The chicken is ready to be eaten.)

(28) She is crazy to join the demonstration.

- (a) 彼女はデモに参加したくて夢中だ。
 (b) 彼女がデモに参加するとは気違いじみている。

(It is crazy of her to join the demonstration.)

(29) John is careful not to kick the wire.

- (a) ジョンは鉄線につまずかないように用心している。
 (b) ジョンが鉄線につまずかないとは注意深いことだ。

上記の例文中(27)~(29)の(a)のように不定詞の意味上の主語が文主語と同一の場合の形容詞は連鎖的形容詞と呼ばれているが、類似の構造には少なくとも四種類の異なる分析 [下記の(a)~(d)] を認める必要がある (Hirst : 148)。

(30) (a) Ross is eager to please.

= Ross is eager that he please someone.

Ross be [eager [Ross please △]]

(b) Ross is ideal to please.

= Ross is ideal for someone to please him.

Ross be [ideal [△ please Ross]]

(c) Ross is easy to please.

= Pleasing Ross is easy.
 [△ please Ross] be easy.

(d) Ross is certain to please.

= That Ross will please someone is certain.

[Ross please △] be certain.

(e) Ross was stupid to take that job.

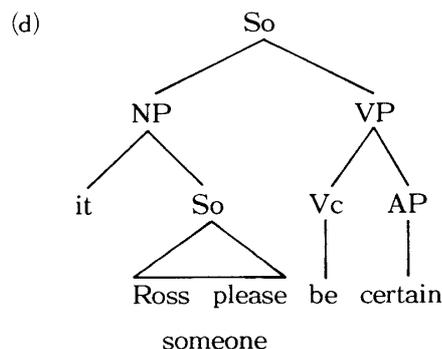
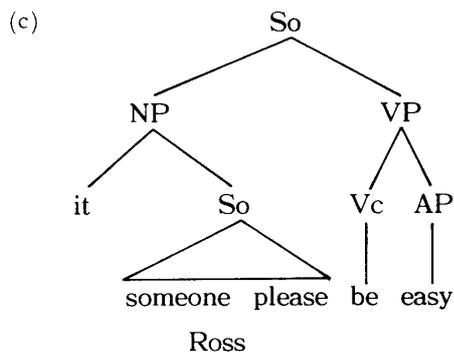
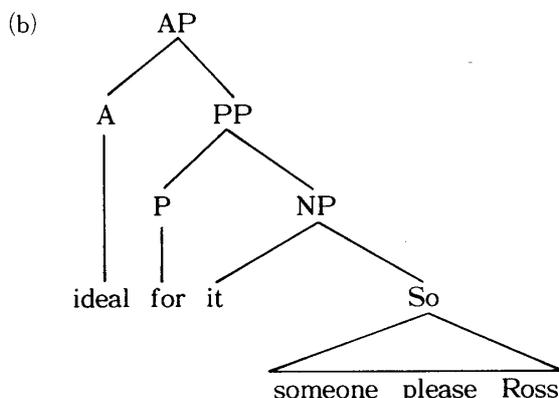
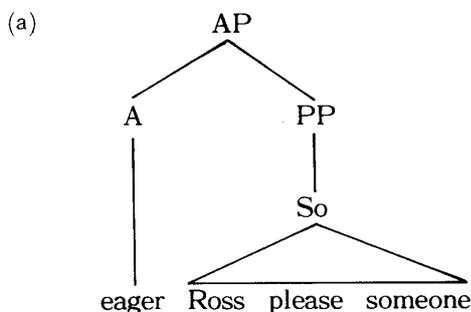
(f) Ross was furious to hear it.

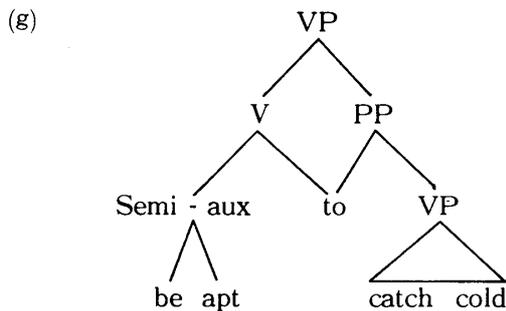
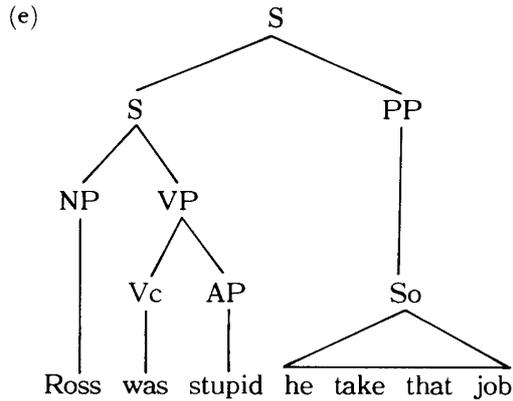
(g) Ross is apt to catch cold.

(e)(f)の不定詞句はそれぞれ理由・原因を表しており、意味上は前の形容詞に直接続かないので、他の例とは異なっている。また(g)の 'be apt to' は準助動詞として用いられているとする見方もあり、これも他と区別すべきも

のとして扱っておく (中島 : 下, 70 ; 上, 107)。

(30 a)~(30 g)の当面問題となっている構造を枝分かれ図で示せば、下記の如きものとなるであろう。





(f)は(e)と同様の枝分かれ図になるであろう。

5 慣用句 (Idiomatic reading v.s. Literal reading)

以下の例のイタリック体では(a)が慣用読み、(b)が文字通り読みである。

(31) Those who play chess *as well as* Bill came.

(a) Those who play chess came and Bill came too.

(b) Those who play chess *as well as* Bill can play chess came.

(32) A : Did you have a good time at the dentist's ?

B : I was *bored to death*.

(a) 死ぬほどうんざりしたよ。

(b) ひどく穴をあけられたよ。

(33) A : I put everything I owned on that horse you told me to bet on — and he lost.

B : Lost ! Why, he could have won *in a walk*.

A : No — he tried that.

A : 君が奨めてくれた馬に有り金を全部賭けたのに、負けちゃった。

B : (a) 負けたって！ だって、奴だったら楽勝できたはずなのに。

(b) 負けたって！ だって、歩いたって勝てたはずなのに。

A : ところが、それをやっちゃったんだよ。

(34) The stewardess was *up in the air*.

(a) スチュアデスは興奮していた。

(b) スチュアデスは空中にいた。

(35) John *twiddled his thumbs* in the waiting room.

(a) Jは待合室で何もしないでぶらぶらしていた。

(b) Jは待合室で(両手の指を4本ずつ組んで)親指をくるくる回した。

(36) A : May I sit *on your right hand* at dinner ?

B : I may need it to eat with, but you may hold it awhile.

A : (a) 食事のときあなたの右側に座ってよろしいですか。

(b) 食事のときあなたの右手の上に座ってよろしいですか。

B : 食べるのに右手が必要ですが、暫くなら手をお取りになって結構です。

同一表現に慣用読みと文字面読みがあることは、jokes には格好の材料になることは上の例に見る通りである。(35)(36)は身体の一部を用いたいわゆる身体表現の二重読みであるが、眼、耳、鼻、口など、身体に関する表現が、文字通りの意味から比喩的な意味に変化して行くことはどの言語にも見られる現象ではなからうか。日本語でも「お灸をすえる」「脱帽する」「ごますり」「顔を貸す」「腰が重い」「舌を巻く」「手を抜く」等、転用された意味で用いられる例は数えあげればきりが無い。

6 <~ ing 句>

<~ ing 形>をめぐる意味論的曖昧性は、それが現在分詞・動名詞・名詞のいずれとして機能しているかという区別の問題と関わりがある。以下、語・句・文のレベルでそれら Ambiguity の現れ方を検討してみる。

6.1 Lexical

(37) We discussed running.

(a) We discussed the sport of running.

[Deverbal Noun]

(b) We discussed the possibility of our running. [Verbal Noun]

(38) I don't approve of his driving.

(a) 彼の運転には満足できない (よいと思わない)。

(b) 彼が運転することには賛成できない。

(39) The mayor disliked sailing in the harbour.

(a) The mayor disliked it when other people sailed in the harbour.

(市長は港内での帆走を嫌った)

(b) The mayor disliked it when he had to sail in the harbour.

(市長は自分が港内で帆走するのをいやがった)

上記(a)のような<~ ing 形>はもともとは Gerund であったものが、その意味上の主語を特定しないことによって、実質的な名詞に転換していったものと思われる。これらは実体名詞とか、行為名詞化形とか、Deverbal Noun などと呼ばれているものである。

6.2 Phrasal

(40) Visiting relatives can be boring.

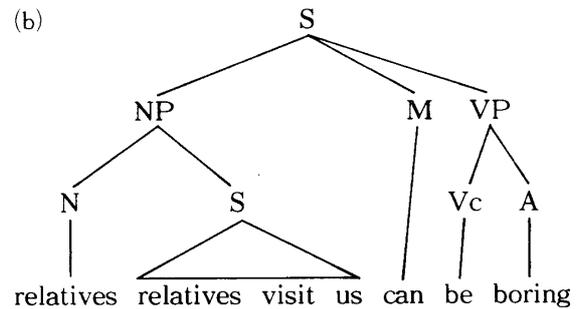
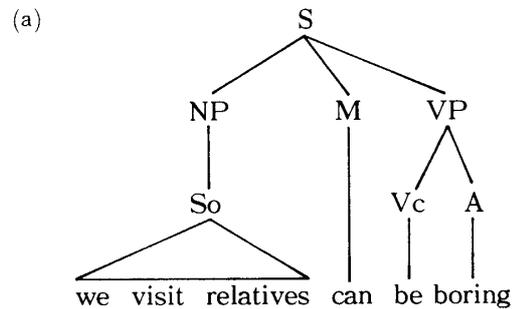
(a) It can be boring to visit relatives.

[Gerund]

(親戚を訪ねるのはうんざりすることがある)

(b) Relatives who are visiting can be boring. [Participle]

(訪ねてくる親戚にはうんざりすることがある)



(41) It is pointed out that assisting doctors may not be very helpful.

(a) 医師たちを手伝うことはあまり助けにならないと指摘されている。

(b) 支援に来ている医師団はあまり助けにならないと指摘されている。

(42) She always loved ringing church bells on Sunday.

(a) She always loved pulling the rope and ringing the church bells on Sunday.

(b) She always loved the sound of ringing church bells on Sunday.

6.3 Syntactical

(43) Everyone knew their business was making money.

(a) 彼らの事業が利益をあげていることはみんな知っていた。[SVO : 進行形]

(a) their business [was making] money.

(b) 彼らの仕事は貨幣の鑄造 [印刷] であることはみんな知っていた。

[SVC : 動名詞]

- (b) their business was [making money]
- (44) Connie had noticed her writing before.
- (a) コニーは以前彼女の筆跡を見たことがあった。[Noun]
- (b) コニーは以前彼女が手紙を書いているのを見たことがあった。[Participle]
- (45) They were always happy pleasing children.
- (a) They were always happy when pleasing children.
(彼らはいつも子供たちを喜ばせて満足していた)
- (b) They were always happy and pleasing children.
(彼らはいつみても幸せな感じのいい子供たちであった)

7 結びに代えて

本稿では、主として名詞・動詞・形容詞・〈～ ing 形〉を中心とする〈句〉について意味の曖昧性を検討してみた。属格を含め名詞が二つ並んだときの NP 同士の意味関係、動詞の後に続く小詞をどう見るか、ある種の形容詞に不定詞が続くときの文構造、〈～ ing 句〉の文中における統語機能 —— こうした事柄が Ambiguity を生み出すことを概観してみた。句レベルの曖昧性を論ずるさいに、PP (Prepositional Phrase) の論議、とくにその付加のあり方によって生じる意味の差異を見逃すことはできないところであるが、紙数も尽きたのでこの問題は 'Syntactical Ambiguity' を扱う次稿にゆずりたい。

引用文献・脚注

- Blake, N.F. *Traditional English Grammar and Beyond*. Macmillan, 1988.
- Close, R.A. *English as a Foreign Language : Its Constant Grammatical Problems*. (3rd ed.) George Allen & Unwin, 1981.
- Copeland, J. & F. (ed.) *10,000 Jokes, Toasts & Stories*. Doubleday & Company, Inc., 1965.
- Hirst, G. *Semantic Interpretation and the Resolution of Ambiguity*. Cambridge U.P., 1987.
- Huddleston, R. *English Grammar : an Outline*. Cambridge U.P. 1988.
- Hurford, J.R. & Heasley, B. *Semantics : a coursebook*. Cambridge U.P., 1983.
- Jespersen, O. *A Modern English Grammar on Historical Principles*, (Pts. II & V) George Allen & Unwin, 1954.
- Kess, J. & Nishimitsu, Y. *Linguistic Ambiguity in Natural Language : English and Japanese*. くろしお出版, 1989.
- Lewis, M. *The English Verb : An exploration of Structure and Meaning*. Language teaching publications, 1986.
- Marquez, E.J. & Bowen J.D. *English Usage*. Newbury House Publishers, 1983.
- Meiers, M. & Knapp, J. *5600 Jokes for All Occasions*. Avenel Books, 1980.
- Perkins, M.R. *Modal Expressions in English*. Francis Pinter, 1983.
- Yule, G. *The Study of Language*. Cambridge U.P., 1985.
- 安藤貞雄 「英語教師の文法研究」(正・続) 大修館書店, 1983, 1985.
- 石橋幸太郎編 「現代英語学辞典」 成美堂, 1973.
- 梅田 巖・藤井健夫・石井丈夫・北 和明・竹村憲一 「英語学の視界」昭和堂, 1984.
- 太田 朗 「否定の意味」 大修館書店, 1980.
- 大塚高信・中島文雄監修 「新英語学辞典」 研究社, 1982.
- 郡司利男編 「英和笑辞典」 研究社, 1961.
- 田桐大澄編 「英語正用法辞典」 研究社, 1970.
- 田中茂範編 「基本動詞の意味論 : コアとプロトタイプ」 三友社出版, 1987.
- 田中春美編 「現代言語学辞典」 成美堂, 1988.
- 中島文雄 「英語の構造」(上・下) 岩波書店, 1980.
- 村木正武・斎藤興雄 「意味論」(現代の英文法第2巻) 研究社, 1978.
- 安井 稔 「意味論」 大修館書店, 1983.

On Phrasal Ambiguity in English

— Varieties of Ambiguity of English Expressions II —

Kiyoharu NAKANO

(Received September 24, 1992)

ABSTRACT

The previous paper, entitled "On Lexical Ambiguity" (*Bulletin of Takaoka National College*, Vol. 3), examined some ambiguous lexical items. These were classified according to conventional word class.

This paper examines higher grammatical units, i.e., word groups or phrases, which allow different analyses and interpretations. These include Noun Phrases, Verb Phrases, Adjective Phrases, and ING Phrases. Special attention is given to ING Phrases.

KEY WORDS

Ambiguity, Vagueness, Noun Phrase, Verb Phrase, Adjective Phrase, ING Phrase, Meaning, Structure